

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年6月13日

【評価実施概要】

事業所番号	270700313
法人名	有限会社ケアサポート三沢
事業所名	グループホーム赤とんぼ
所在地	三沢市大字三沢字南山85-1 (電 話) 0176-54-2332
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年1月12日

【情報提供票より】(平成19年12月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円または30,000円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4)利用者の概要(12月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4	名	要介護2	4	名
要介護3	7	名	要介護4	1	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢	平均	80 歳	最低	65 歳	最高 87 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三沢市立三沢病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自分らしさを失わない 家族も安心出来る、笑顔と思いやり そして、やすらぎのある生活を援助する」という理念を掲げており、職員は利用者一人ひとりの表情を観察しながら声がけを行うなど、理念の実現に向けた取り組みを行っている。

利用者がこれまでのかかりつけ医で受診できるよう支援するほか、24時間いつでも相談に乗ってもらったり、対応してもらえるよう協力医療機関を確保している。また、管理栄養士の資格を持った管理者が、栄養バランスやカロリー等に配慮して献立を作成したり、食事や水分の摂取量を記録する等、利用者の健康管理に努めている。

ホーム周辺が散歩道となっているため、天気の良い日には散歩に出かけたり、菜園で作業するほか、利用者の希望を聞きながら買い物に出かける等、外出する機会を設けている。

共用空間に木製の椅子やテーブル、畳の長椅子を設置したり、居室に冷蔵庫や椅子等の馴染みの物を持ちこんでもらうなど、利用者が落ち着いて居心地よく過ごせるような空間作りが行われている。

【特に改善が求められる点】

開設当初からの理念を掲げ、その実現に向けて取り組んでいるが、全職員が地域密着型サービスに関する理解をより深め、地域との関わりに関する要素を現在の理念に盛り込んでいくことに期待したい。

虐待や身体拘束のないケアを実践しているが、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等に関する取り決め、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に理由等を記録する仕組みなどを整備してはどうか。

全職員が個々の力量や希望等に応じた研修に平均的に参加できるよう、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。また、グループホーム協会の研修等を通じて他事業者との情報交換を行うなど、少しずつ同業者とのネットワークを広げ、得られた知識等を職員やホーム全体のレベルアップにつなげていくことに期待したい。

町内会等への働きかけを継続し、運営推進会議を発足させるとともに、会議を通じて災害時や利用者の無断外出時等に備えた近隣からの協力体制を強化させていくことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を検討し、改善できることから実践し、より良いホームを目指している。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 会議等を通じて全職員に評価の意義等を周知しており、職員は概ね理解している。自己評価は各ユニットごとに全職員で取組み、完成させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 管理者は運営推進会議の役割や意義を理解しており、開催に向けて委員候補に声がけ等を行っているが、会議発足までには至っていない。町内会や民生委員、行政等の協力を得ながら、会議設立に向けた今後の取組みに期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 各家族に対して月1回家族通信を発行し、暮らしぶり等を報告している。また、面会時にも日々の利用者の様子や苦情受付窓口を伝えるなど、家族が意見等を話しやすい雰囲気作りを行っている。契約時の文書やホールに苦情受付窓口を明示したり、入り口に意見箱を設置する等の取組みも行っており、家族から要望等が出された時は職員会議で検討して対応するなどの仕組みとなっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム周辺には転勤族等が多く、地域との密接な関わりを持つことは難しいが、町内会に加入し、ホーム行事を開催する時には参加を呼びかけている。また、近隣の保育園児との芋掘りなどの交流も図られている。ボランティア等の受入れも行っており、その際には利用者のプライバシーに配慮している。

【各領域の取組状況】

領 域	取組み状況
I 理念に基づく運営	職員間での理念の共有化を図っており、利用者が落ち着いて生活できるよう積極的に声がけするなど、理念の実現に向けた取組みを行っている。 契約時は、重要事項説明書やパンフレットを基にホームでの暮らしについて利用者や家族に説明し、疑問点等を出しやすいよう配慮している。また、契約改訂時や退居時にも分かりやすく説明し、納得してもらっている。 職員の異動等による利用者への影響に配慮し、異動や配置換えを行う時は職員間での引継ぎや利用者への説明を行っている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用者や家族との面談や、ケアマネジャーとの情報交換等を通して一人ひとりの意向把握に努めている。また、体験利用を促すなど、少しずつホームの雰囲気慣れてもらうような取組みが行われている。 職員は利用者の表情等を観察し、個々の喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、漬物作りや料理等の得意分野では利用者に手伝ってもらうなど、利用者と職員が助けあいながら生活している。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	介護計画作成時には利用者や家族の要望等を聞くほか、ユニット会議で職員の気づき等を出し合っており、一人ひとりの状況に応じた計画となっている。また、再アセスメントを行いながら適宜見直しを行っている。 買い物や通院時はホームの車で送迎を行うなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。 重度化や終末期のケアには対応していないが、日々の健康管理や緊急時の対応については家族等と意思統一を図り、対応している。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者の言葉に耳を傾け、また、一人ひとりの言動を急かすことなく、利用者のペースやその日の状態に応じたケアを提供するよう努めている。また、個々の希望も大切にしており、月数回は自由食メニューの日とし、利用者の食べたい食事を提供する等の工夫を行っている。 感染症予防等に関するマニュアルが整備されており、必要に応じて見直しを行うほか、ユニットごとの勉強会を実施して理解を深めている。また、マニュアルをホールに掲示したり、家族来所時には情報提供を行うなど、感染症に関する知識の周知に努めている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は地域密着型サービスの役割等を理解している。開設当初からホーム独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割等を盛り込むまでには至っていない。	○	全職員で地域密着型サービスについて話し合い、現在の理念に地域の中で生活するという要素を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールに掲示するほか、申し送り時に全職員で唱和する等、共有を図っている。また、利用者が落ち着いて生活できるよう積極的に声がけするなど、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホーム周辺には転勤のある方が多く住んでおり、地域との密接な関わりを持つことは難しいが、町内会に加入し、ホーム行事を開催する時には参加を呼びかけている。また、近隣の保育園児との芋掘りなどの交流も図られている。ボランティア等の受入れも行っており、その際には利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は評価の意義等について理解しており、会議などを通じて全職員に周知している。職員は概ね理解しており、自己評価は各ユニットごとに全職員で取り組んでいる。また、外部評価の結果を検討し、改善できることから実践している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は運営推進会議の役割や意義を理解しており、開催に向けて委員候補に声がけ等を行っているが、会議発足までには至っていない。	○	町内会や民生委員、行政等の協力等を得ながら、会議設立に向けて継続的な働きかけを行うことに期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットを行政窓口に配布するほか、自己評価や外部評価の結果を報告することとなっている。また、必要に応じて連絡を取り合ったり、助言をもらう等の連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について概ね理解しているが、全職員が理解するまでには至っていない。	○	利用者の状況によっては必要となる制度なので、外部研修に積極的に職員を派遣したり、内部研修のテーマとして定期的に取り上げる等の取り組みに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないという認識で日々のケアを提供しているが、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等に関する取り決めは作成されていない。	○	全職員で話し合いを行うなど、虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等に関する取り決めを作成し、それを職員間で共有することに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書やパンフレットを用いて理念や生活内容等に関する説明を行うほか、利用者や家族が疑問点等を話しやすい雰囲気作りを行っている。また、契約改訂時や退居時にも分かりやすく説明し、家族等の同意を得ており、退居時には関係機関と情報交換を行って利用者や家族に不安を与えないよう配慮している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各家族に対して月1回家族通信を発行しており、暮らしぶり等を報告している。また、出納帳と領収書を基に月1回家族に金銭管理状況を報告している。職員の異動については家族から尋ねられた時は対応しているが、ホーム側から積極的に報告するまでには至っていない。	○	家族通信や面会時等を利用し、職員の異動等についても積極的に情報提供を行っていくことに期待したい。
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には声がけしたり、利用者の状況を報告するなど、家族が話しやすい雰囲気作りを行っている。また、重要事項説明書やホールに苦情受付窓口を明示したり、入り口に苦情意見箱を設置するほか、面会時には継続的に家族に窓口を伝える等の取り組みを行っている。家族から意見等が出された時は、職員会議で検討して対応する等の仕組みが整えられている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動や交代による利用者への影響を理解しており、異動や配置換え等を行う時は利用者に分かりやすく説明するとともに、職員間での引継ぎを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の日々の悩み等については管理者が指導や助言を行っている。外部研修受講後は復命書を作成し、内部研修として全職員に周知している。採用時に研修を行ったり、外部研修の案内が来た時は全職員に案内しているが、年間の研修計画が作成されていないこともあり、全職員が平均的に研修を受講する体制とはなっていない。	○	全職員が個々の力量や希望等に応じた研修に平均的に参加できるよう、これまでの研修傾向等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているが、それをきっかけとして他事業者との交流や連携を図るまでには至っていない。	○	グループホーム協会の研修等に参加した時に他事業者との情報交換を行うなど、少しずつ同業者のネットワークを広げていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族との面談や、ケアマネジャーとの情報交換等を通して一人ひとりの意向把握に努めている。また、体験利用を促すなど、少しずつホームの雰囲気慣れしてもらうような取り組みが行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の表情等を観察し、個々の喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、漬物作りや料理等の得意分野では利用者に手伝ってもらうなど、利用者と職員が助けあいながら生活している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや日々のコミュニケーション等から一人ひとりの意向把握に努めている。また、利用者の意向把握が難しい場合には表情や動作から把握したり、家族から情報収集を行うなどの取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者及び家族の意見や要望等を聞き出すほか、ユニット会議で職員間の気づきを出し合っており、一人ひとりの状況に応じた内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月ごとに再アセスメントを行い、6ヶ月ごとに見直しを行っている。また、利用者の状況や家族の要望等に変化があった時は随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や通院時などはホームの車で送迎を行う等、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	アセスメント等からこれまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、24時間体制で対応してくれる協力医療機関も確保している。通院時はできる限り家族にも同行してもらっているが、受診結果は家族通信等で報告し、共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、日常的な健康管理や緊急時の対応については家族との意思統一が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言葉には耳を傾けるほか、排泄時等は一人ひとりの羞恥心に配慮した支援を行うよう心がけている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人情報は事務室のカーテンのある場所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、基本的には利用者の訴えを優先するよう努めている。また、個々のペースやその日の心身の状態に合わせた対応を心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握して献立に取り入れたり、月数回は自由食メニューの日とし、利用者の食べたい食事を提供する等の工夫が行われている。また、食事の準備や後片付けを利用者と一緒に行ったり、食べこぼし等へのサポートをしながら職員も一緒に食事を摂る等、楽しめるような配慮が行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	アセスメント等から一人ひとりの入浴習慣を把握しており、見守りや声がけ等を行いながら意向にそった支援を行っている。また、入浴を拒否する利用者には声がけを工夫する等、2～3日に1回は入浴してもらうよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと、力量等を把握しており、利用者が生き生きと生活できるよう、食事の準備や掃除等の役割のほか、菜園作業等の楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺が散歩道となっているため、天気の良い日には散歩に出かけている。また、菜園で作業したり、利用者の希望を聞きながら買い物に出かける等、外出する機会を設けている。外出時は利用者の身体状況やその日の状態に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員は身体拘束の内容や弊害について理解しており、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。しかし、やむを得ず拘束を行う場合に備えて、理由や期間、経過等を記録したり、家族の同意を得る体制を整備するまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、家族の同意を得たり、拘束の理由や期間、経過等を記録する様式を整備してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は外からは自由に入れるが、中からは番号操作によりドアが開く仕組みとなっており、家族の同意を得ている。見守りにより外出傾向を察知した時は職員が付き添う等の対応を行っているが、無断外出時に備えて近隣への協力を呼びかける等の働きかけは行われていない。	○	無断外出時に備え、町内会等に協力を呼びかけるなどの取り組みに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施しているが、災害時に地域から協力が得られるような働きかけや、食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に近隣からの協力が得られるような働きかけを行ったり、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が管理栄養士の資格を持っており、栄養バランスやカロリー等に配慮した献立を作成している。また、食事や水分の摂取量を把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防等に関するマニュアルが整備されており、保健所等から新しい情報を入手した時などは見直しを行っている。また、ユニット毎の勉強会を実施し、理解を深めている。玄関に消毒液やうがい薬を用意して感染症の予防・蔓延に努めるほか、マニュアルをホールに掲示したり、家族来所時には情報提供するなど、感染症に関する知識の周知に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には木製のテーブルや椅子、畳の長椅子等が設置されているほか、鉢植えの花等が置かれており、家庭的な雰囲気となっている。また、テレビ等の音量は適切で、日射しの強さは障子やカーテンで調節するなど、快適な空間作りが行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には冷蔵庫や椅子等の馴染みの物が持ちこまれているほか、利用者の作品を飾る等、一人ひとりにとって過ごしやすい空間となっている。		

※ は、重点項目。